# 非核・いしかわ

2017 年 9 月 20 日　月刊第 230 号　発行／非核の政府を求める石川の会

事務局／石川民医連労働組合気付
〒920-0848 金沢市京町 28-8　TEL076-251-0014　Fax 076-251-3930
郵便振替口座 00760-0-15689　会報込年会費 3000 円


非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する


1 面　合言葉は「勝つまでは諦めない」　伊佐真次
2 面　原水爆禁止世界大会・参加報告　佐々木景也
3 面　憲法 9 条の偉大さと誇り　清水雅彦
4 面　安倍政権下で雇用や働き方はよくなったか　伍賀一道
5 面　国連・核兵器廃絶デー記念イベント　神田順一
6 面　「戦争遺跡」を探索する　柴原和美
7 面　広島を訪ねて　下島章弘
＜独標より＞　昨今　高久晴美
8 面　石川の地域点描 シリーズ　中西　優
絵手紙コーナー　広瀬勝子


◇講演要録◇

# 合言葉は「勝つまでは諦めない」

## ヘリパットいらない住民の会　伊佐真次

講師の伊佐真次さん

### 自然豊かなやんばるの森

まず、伊佐さんは、やんばるの森がどういうところかお話になりました。「いつも青々とした緑が広がっているヤンバルの森には、ノグチゲラ（キツツキ）、ヘゴの木、国の特別天然記念物のリュウキュウウラボシシジミという高江で群れになって飛んでいる珍しい蝶やリュウキュウヤマガメ、また、ヤンバルテナガコガネ、ハグロトンボ、キノボリトカゲ、現在は中部には見られず、ヤンバルにだけ見られるオキナワイシカワカエルなど、こういう自然豊かな森がヤンバルの森で、その森が世界自然遺産登録の候補地にもなっているこの貴重な所で米軍が訓練をしているのです。」と言うのです。いかに米軍が沖縄の自然を大事にしていないかよく分かりました。

### 沖縄県民の人権侵害の実態

二つ目に、沖縄の人たちの基本的人権がいかに尊重されずに無視されているかをお話になりました。まず、歴史的に言うと、戦後、沖縄が日本に返還される前、当時米軍は、ベトナム戦争の訓練として、高江の人々をベトナム人にみたてて訓練をしていたことを話されました。当時枯れ葉剤を撒いて訓練をしていて、枯れた草を片付けていたのは地域の高江の住民で、ガンで亡くなった人が多いが米軍は調べていない。それどころか「撒いていない」と言っています。日本政府は「米軍がそう言っているのでそうなのでしょう」と取り合いません。

そして、今、その高江にヘリパット建設の話。住民にはしっかり説明しないまま、ヘリパットがくるのも説明しないまま、強行工事決行。安次嶺ゲン

---

花鳥風月

今夏も集中豪雨被害が各地であり、地球温暖化と異常気象の関係を気象予報士は解説されていた▼地球の温暖化は大気圏にある「温室効果ガス」の影響があり世界的に熱い論議がされている▼「温室効果ガス」とは地表から放射された赤外線の一部を吸収することで温室効果をもたらす気体の総称で、人為的に排出されるガスの中では二酸化炭素の影響量が最も大きい▼エアコンや冷蔵庫などに使用されてきた冷媒「フロンガス」はオゾン層を破壊することで使用が禁止された▼新しいタイプのショーケース、冷蔵庫などに使用されている冷媒は「代替フロンガス」で、オゾン層に悪影響はないが、温室効果が二酸化炭素の数百倍から一万倍（種類により）もあり温暖化の面では極めて弊害が大きい▼運転中に漏れたり修理や廃棄する時に放出されることから、大気中に大幅に増えることが予想できる。量自体は二酸化炭素よりずっと少ないが、温室効果ははるかに大きく二〇一六年一〇月、規制ガスの対象になった▼冷蔵庫は「ノンフロン＝新冷媒」対応の製品が出ているが全体の対応は遅れている▼注意したいことは廃棄する冷却機の有害冷媒ガスは抜き取り処理ができる業者や販売店に確認し依頼を。（平）

さんが心配していた「住めなくなるのではないか」が現実になりました。「人間らしく、静かに生活したい、生きたい」という基本的な人権が無視されていて、これは、生活を奪われるという大変な人権侵害であると思いました。

**日本は米国従属国か？**

三つ目には、日本政府が右記のことを米軍や米国の要請に言いなりになって、警察を含めて、沖縄県民を守るのでなく、米軍を守っている言動をしていることです。私はこれは独立国家でなく米国従属国家だと思いました。また、地域住民の話を聞かず、米軍の言うことだけを聞いてことを進めるなんて、民主国家でないと思いました。それをマスコミや政府が「やまとんちゅう」に知らせようとしない情報操作までしているし、一番許せないと思ったのは、米国ですら禁止している「スラップ裁判」などで闘争を続けている仲間を分断しようとしていることです。住民の言うことを聞かないどころか法を悪用して、地域住民を苦しめるなんて本当に法治国家なのかと思いました。

**「勝つまでは諦めない」**

そんな厳しい状況の中で、伊佐さん達はどのように闘ったかお話になりました。全国から機動隊を五〇〇人も集め、反対派を排除しました。しかし、住民は「勝つまでは諦めない」を合言葉に、工事のダンプに抗議したり、集会を開いたり、監視活動を続けたり、今も座り込みを続けています。また、「オール沖縄」体制でみんなで推したのが二〇一四年。国に訴えても国は応えず、それでも住民・知事などオール沖縄で県民がつながり合って今も闘い続けて取り組んでいます。しかも、どんな状況になっても、前を向いてつながり合って戦い続けています。私は、伊佐さんを始め、沖縄の人たちの「したたかに」「しなやかに」「諦めない」闘う姿から「真実」を学べたように思います。そして、伊佐さんからも言われたように自分が石川でもできることや「オール石川」でできることをしていきたいと力強く思いました。そして、私も共感した仲間とつながり合っていくことを大切にしていきたいと意を強くしてこの講演を聞きました。

（報告　松村一成）

◎八月二七日、教育プラザ富樫で開かれた県民教育文化センターの「二〇一七夏の交流研究集会」での沖縄・高江の〝ヘリパットいらない住民の会〟伊佐真次さんの講演要旨です。

## 原水爆禁止世界大会・参加報告

### 一人ひとりは微力だが、無力ではない

城北病院初期研修医　佐々木景也

私にとって初めての原水爆禁止世界大会は、日本をはじめ、世界中の核兵器のない平和を望む人たちの熱い思いをひしひしと感じると同時に、三日間の限られた時間では学びが物足りなく、もどかしい大会でもあった。今回の原水爆禁止世界大会は七月七日に核兵器禁止条約が採択された後初めて開かれた記念すべき大会であり、初日の開会式では約六千人もの人が集まったとのことで、その人数の多さに圧倒された。

開会式で安斎育郎先生のあいさつがあったが、その中で数学に関する内容が印象に残った。それは、今年は戦後七二年であり、七二という数字は多幕数（powerful number）であるが累乗数（perfect power）でないアキレス数であることにかけて、およそ一二〇カ国が賛同した核兵器廃絶へと向かう大きな一歩となる powerful な核兵器禁止条約を、これから全ての国が批准する perfect な条約にしていこうということであった。日本は唯一の被爆国でありながらこの条約に批准しない国であり、ぜひとも日本にはこの条約を批准し、核廃絶を引っ張っていくリーダーとなる国になって欲しいと切に感じる開会式となった。

原爆殉難教え子と教師の像

二日目は「核兵器と原発」という分科会に参加した。原発も核燃料を使う危険な存在で、攻撃されれば福島と同様の事態がおこる核地雷であり、そのようなものを保持している日本は戦争などできるはずもなく、少しでも早く原発を廃炉にして平和の道に進むべきということが話された。

私は一五基の原発を有する福井県出身ということもあり、もし原発が攻撃されたら私の故郷はたちまち住めなくなる地域と化す可能性があるため、早急に原発に代わるエネルギー生産の仕組みをつくり、原発を廃炉に向ける動きが始まって欲しいと思った。

また福島第一原発事故後、その場から逃げた人と留まった人の間で言い争うことや、他県に逃げた福島出身者

が差別を受けたりということも現実に起こっていると聞いて、原発事故の被害者であるにも関わらず、被害者同士がいがみ合ったり、長期にわたって苦しみを味わわなければならないのは理不尽であり、福井県で同じことが起こって欲しくないと心から思った。現在福井大学で廃炉にするための技術開発が始まったとのことなので、そういった技術が早く確立することを期待したい。

閉会式では開会式を超える約七千人の人が集まったらしく、さらなる盛り上がりをみせた。その中で長崎の初期研修医が発言した「戦争で傷ついた人を治療するのではなく、人の幸せを支える医療をさせてください」という言葉は、まさに同じ思いであり、世界が戦争をする動きには断固として反対していきたい。

今大会では「一人ひとりは微力だが、無力ではない」のスローガンのもと多くの署名が集められていることを知り、私も高校生の署名活動に協力した。このようなことがつながって政府に働きかける大きな動きとなることを願っている。また、今大会の内に原爆資料館などをみることができなかったので、いずれ再訪して学びをより深めていきたいと思う。

□講演要旨□

## 険しい憲法情勢の中でたたかいの発展めざして
### ―憲法九条の偉大さと誇り―

日本体育大学体育学部教授　清水雅彦

憲法の平和主義を力説された清水雅彦氏

**安倍首相らの最近の改憲論**

今年の五月三日、改憲派の憲法記念日フォーラムにおけるメッセージで安倍首相は「憲法は国の未来、理想を語るものです」と述べている。憲法は国家権力を制限し、国民の人権を守るもの（立憲主義）であり、理想を語るものではない。一国の首相として立憲主義に対する無知をさらけ出している。また「憲法改正に向けて、ともに頑張りましょう」の発言も、国会議員に憲法擁護義務を課している憲法九条に明らかに違反している。

安倍首相がこの日唐突に提案した九条「加憲」論につき、保岡興治自民党憲法改正推進本部長は検討項目として、①憲法九条の従来の政府解釈を動かさないで自衛隊を憲法に位置づける、②高等教育を含む教育の無償化、③緊急事態条項の創設、④一票の格差・合区の解消などの選挙制度の四項目を挙げ、年内をめどに党の改憲案をまとめると発言している。

安倍首相のブレーンの伊藤哲夫氏（日本政策研究センター代表）は、『明日への選択』二〇一六年九月号にて『改憲はまず加憲から』という考え方は、公明党の主張に単に適合させることに留まらない。むしろ護憲派にこちら側から揺さぶりをかけ、彼らに昨年のような大々的な『統一戦線』を容易に形成させないための積極戦略である」と加憲の狙いを述べている。また岡田邦弘氏（日本政策研究センター所長）は、二〇一七年発行の『これがわれらの憲法改正提案だ　護憲派よ、それでも憲法改正に反対か？』（日本政策研究センター）にて「二項はそのままにして、九条に新たに第三項を設け、第二項が保持しないと定める『戦力』は別のものであるとして、国際法に基づく自衛隊の存在を明記するという改正案も一考に値する選択肢だ」と自衛隊明記が「九条問題」克服のカギと位置づけている。

**九条改憲論の本意**
**―従来の自民党の九条改正案―**

二〇〇五年一〇月二八日「新憲法草案」では九条二項（戦力の不保持）を削除して、自衛隊を保持することを提案。二〇一二年四月二七日「日本国憲法改正草案」では九条二項を「前項（戦争の放棄）の規定は、自衛権の発動を妨げるものではない」と改正し、国防軍を保持することを提案。自民党Q&Aでは「自衛権には、国連憲章が認めている個別的自衛権と集団的自衛権が含まれている」と説明している。この外、改憲派の主流は「九条一項（原則）維持・二項改正案」であり、十一の試案が出されているが、安倍首相が提案した「九条一項二項維持・三項追加案」は、改憲派のなかでは少数派でこれまで試案は二つだけである。

**戦争違法化のなかでの憲法九条**

二〇世紀は戦争の世紀といわれるが、一方で人類は戦争を規制する努力もしてきた。第一次世界大戦後、かつての正戦論、無差別戦争観に対峙して侵略戦争を制限した国際連盟規約を一九一九年に制定し、一九二八年には

侵略戦争を放棄する国際規範として不戦条約を制定した。第二次世界大戦を経て、一九四五年に「自衛戦争」の制限をめざす国連憲章を制定し、戦争違法化を進めてきた。この流れを推し進めると「自衛戦争」の放棄であり、「自衛戦争を含む一切の戦争放棄」を規定する九条一項は戦争違法化の最先端に位置する。

第二次世界大戦後、一九四二年ジュネーブ俘虜条約（文民、捕虜の保護）、その後も攻撃は必要最小限にと、一九七二年生物兵器禁止条約、一九九三年化学兵器禁止条約、一九九七年地雷禁止条約、二〇〇八年クラスター爆弾禁止条約、そして二〇一七年核兵器禁止条約の制定と、着々と兵器の制限を進めてきた。この流れを推し進めると「自衛力保持を許さない」九条二項も戦争違法化の最先端にある。ところが安倍政権は、欧米のように憲法で軍隊が戦争をすることを認めている「普通の国」になろうとしている。

**九条「加憲」論の検討**

これまで自衛隊違憲論があることで、自衛隊は戦力、軍隊ではない。「専守防衛」「集団的自衛権行使否認」「海外派兵の禁止」など歯止めをかけることができた。

法学一般の「後法優先の原則（後法は前法に優る、後法は前法を破る）」からすれば、九条二項は「空文化」「死文化」する。従って、「加憲」ではなく、「改憲」「壊憲」が狙われている。集団的自衛権を行使する自衛隊が憲法に明記されると、憲法違反の「戦争法」が正当化されてしまう。今後、自衛隊から国防軍へ、軍隊に向けてさらなる改憲が企図される。

**憲法の平和主義の意義**

憲法九条の「消極的平和」とは、何かをしないことによって得られる平和であり、戦争をしない、軍隊を持たないことである。憲法前文の「積極的平和」とは、何かをすることによって得られる平和であり、社会構造によって生じる構造的暴力（貧困、飢餓、抑圧、疎外、差別など）をなくしていく考え方である。

前文では、「われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。」と述べている。画期的なのは、平和的生存権の主体を一国平和主義ではなく、全世界の国民が戦争と貧困のない社会を実現しようと宣言していること。日本がすべきことは九条の観点からアメリカの戦争に加担しないだけでなく、前文の観点から「テロ」の根底にある世界の貧困問題に向き合っていくことである。

自民党の憲法改正草案の前文では、構造的暴力の解消に触れた部分も平和的生存権の部分もばっさり削除している。このような改憲は絶対に許してはいけない。改めて憲法の制定趣旨や基本原則を述べている前文を注視していただきたい。

（非核・いしかわ編集部）

◎八月二六日、富山市・サンシップとやまで開かれた「9条の会」北陸ブロック交流会の記念講演要旨です。

**◇講演要録◇**

## 安倍政権下で雇用や働き方はよくなったか

金沢大学名誉教授　伍賀一道

若者の雇用状況を詳しく解説された伍賀先生

伍賀氏の講演では、現代の労働を取り巻く様々な問題に言及された。本稿では、その中でも若者（特に高校生・大学生）を取り巻く労働問題における解説をご紹介する。

まず伍賀氏が示したのは、「安保法制の廃止、立憲主義の回復」を理念に掲げる「いしかわ市民連合」がイベントで雇用と労働の問題を取り上げる意義。現代社会における貧困や雇用不安の広がりは、民主主義そのものを脅かすものである。この雇用の劣化と働き方の貧困を改革するための雇用・労働政策を市民の立場から考え示していく活動の重要性を説いた。

そして本題へ。まずはアベノミクスの評価。株価や企業業績が著しく改善した反面、賃金水準や個人消費は低迷。この個人消費の低迷が市場の不活性化を引き起こす。そして、活気のない市場に対して企業は安心して投資することができず、企業の内部留保が過去最大になるという悪循環に陥っていると指摘した。

次に指摘したのは、「人手不足」の現状について。巷では、度々「人手不足」が謳われているが、実際はどうなのだろうか。その実態を探る前提として、新規学卒者の就職状況を紹介。一言で表すならば「改善」しており、その要因として、㈠若年人口の減少、㈡大企業の利益増大・安定、㈢「団塊の世代」退職による積極的採用が挙げられる。だが、注意しなければならないのは、何故このような傾向が出てきた

のかということ。この「改善」は㈠や㈢のように、政策的な成果ではなく、世代として当然の流れなのだが、これを「アベノミクスの成果」と錯覚する学生が多く、それが安倍政権の高支持率の背景にあることを押さえる必要があると訴えた。

**「有効求人倍率」の実態**

続けて、「有効求人倍率」の実態について解説。「有効求人倍率」とは、有効求人数を求職者数で割ると求められる。この倍率を職種別に見ると、「接客・給仕」三・五六倍、「介護サービス」三・二一倍、「飲食物調理」二・九三倍、「商品販売」二・〇七倍である一方、「一般事務」は〇・三〇倍となっている（数字は二〇一七年五月のもの）。つまり、他業種に比べて、圧倒的に事務職に希望が集中しているのがわかる。すなわち、いわゆる「人手不足」は、すべての業種ではなく限定的な事象であるというわけである。さらに、上述した高倍率の業種（物流、サービス業関連）では、慢性的な非正規雇用体制が続いており、「人手不足」でありながら非正規雇用は増加の一途を辿っている。以上から、日本の産業構造がサービス業中心に変化している中で、非正規雇用者の比重が増大していることも現代の雇用状況の特徴だと示した。

**若者の過酷な雇用環境**

そして、若者、特に高校生・大学生を取り巻く過酷な労働問題の話題へ。その現状を示すものとして、「労働力人口の増加」が挙げられる。労働力人口とは、十五歳以上の「就業者」および求職中の「完全失業者」の合計を指し、この数字は増加傾向にある。ここで注意すべきは、日本における十五歳以上の人口自体は減少しているということだ。十五歳以上の人口自体は減っているにもかかわらず、労働力人口は増加している。一見、矛盾しているようにも思える現象だが、この背景には高校生、大学生のアルバイト増加等による労働の低年齢化が存在している。本来、高校・大学生活の中で、学業、スポーツ、芸術あるいは趣味など様々な学びを得られる時期に、社会勉強としてではなく「生活費のため」の労働（アルバイト）に多大な時間を割く学生が増加している。これは、学生にとって授業・教育を受ける権利が侵害されている重大な問題である。さらに学業の時間が十分に確保できないことから、低学歴になりがちであり、現在の「学歴社会」日本においては、これが「貧困の再生産」を発生させる原因の一つともなっている、この高校生・大学生を市場の基幹労働者とさせてしまっている現状にメスを入れる必要があると説き、この問題を市民目線で考え、議論していくことが必要だと語った。　（まとめ　大田健志）

◎九月三日、近江町交流プラザ集会室で開かれた「いしかわ市民連合第三回市民集会」での講演要録です。

## 非核・平和のひろば

### 国連核兵器廃絶デー記念イベント 世界同時行動「平和の波」を成功させましょう

核戦争を防止する石川医師の会は二〇一五年から始めた国連・核兵器廃絶デー記念イベントを毎年、国際連合広報センターはじめ、非核平和団体やマスコミ各社の『後援』を得て開催しています。

今年は九月二三日（土）午後六時半から近江町交流プラザにて、第一部は石川県原爆被災者友の会が作成した被爆証言ＤＶＤ「この空を見上げて～石川・被爆者たちの証言～」の上映会、第二部はＮＰＯ法人ピースデポの山口大輔さんを迎えて、講演会「核兵器禁止条約とこれから～北朝鮮とアメリカへの日本の回答、北東アジア非核兵器地帯」を開催します。

今年の記念イベントでは、「ヒバクシャ国際署名」推進連絡会加入の県内団体に働きかけて、新たに原水禁石川県民会議、創価学会平和委員会からも『後援』を得ることができました。

日本被団協の木戸李市事務局長は、「ヒバクシャ国際署名」運動のイメージとして「①運動への参加の仕方は多様であり、穏やかにつながって進めていく。②それぞれの団体が自主的に賛同して進める。それぞれが進めながら呼吸を合せて節目ふしめでまとめていく。③地域には地域の特色があり、地域ごとに特色を出して進めていく。」と講演しています。国連・核兵器廃絶デー記念イベントの取り組みは、〝穏やかにつながり、節目でまとめ、地域ごとに特色を出す〟の木戸事務局長の講演を具体化したものです。

八月の原水爆禁止世界大会in長崎で呼びかけられた九月二〇日（各国政府で核兵器禁止条約の署名開始）から九月二六日（国連・核兵器廃絶デー）までの世界同時行動「平和の波」を大きく成功させるためにも、ぜひご参加をお願いします。　（神田順一）

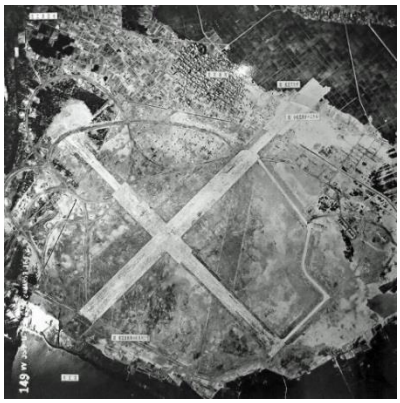
## 非核石川の会リレーエッセー

# 「戦争遺跡」を探索する

柴原和美

「戦争遺跡」とは「近代日本の侵略戦争とその遂行過程で、戦闘や事件の加害・被害・反戦抵抗に関わって国内外で形成され、かつ現在に残された構造物・遺構」（引用『しらべる　戦争遺跡の辞典』（柏書房）と定義付けられる。目を凝らしてみると、「こんな所にも戦争の跡が」と見つかることがある。

小松空港向かいの航空プラザの「小松海軍航空基地」の展示を見てみよう。旧海軍小松飛行場の航空写真（写真①）等が展示されている。



旧海軍小松飛行場（写真①）

当時の市長が、陸軍軍都の金沢に対抗し、「空の軍都」を構想した軍都計画書（海軍舞鶴鎮守府へ提出）も見ることができる。一九四五年に沖縄が米軍に占領されると、九州から第七〇八飛行隊が小松飛行場に移動した。大型の一式陸上攻撃機に人間爆弾「桜花」を吊し特攻を行う「神雷部隊」だった。小松から鹿児島県鹿屋基地を経て沖縄方面に九回出撃し、二七七人が犠牲になったという記録もある。（参考『特攻』（中公新書））

航空基地全図に、粟津駅から飛行場までの引込線が描かれている。現在は道路になっており、串町道路脇に引込線跡の標識（写真②）がある。

引込線跡の標識（写真②）

飛行機を入れる掩体壕跡（写真③）

現在の滑走路近くでは、飛行機を入れる掩体壕跡（写真③）をフェンス越しに見ることができる。

自家発電所跡の構造物（写真④）

浮柳郵便局裏にはカマボコ型の自家発電所跡の構築物（写真④）がある。

加賀市一白町まで足を延ばすと、予科連之碑（写真⑤）が建っている。

予科連之碑（写真⑤）

一九四四年九月に、広大な敷地に五〇棟もの兵舎がつくられ、六千人の十代後半の若者たちが海軍飛行予科練習生として集められた。しかし、多くの飛行機が戦地に送られ訓練できない予科練生は、本土決戦に備えて防空壕掘りや田鶴浜（現七尾市）の飛行場建設に駆り出された。防空壕の一部は、その跡を確認できる。（参考『一白町の歴史』）

戦争遺跡を見たり調べたりすることで、戦争が決して遠くかけ離れた所のものではないことがわかる。

# 広島を訪ねて

下島章弘

福山市での法要の帰り、広島市に一泊することにした。初めて広島を訪れたのは、一九六三年に開催された第九回原水爆禁止世界大会である。

この年の世界大会は、核実験や部分核停条約への態度をめぐる路線上の対立によって別集会が開かれたり、分散・分科会の会場や宿舎のキャンセル騒動が起きたりして、大混乱となった。

私の参加した集会は炎天下の平和公園の木陰だった。この混乱への怒り、怒りの発言に終始した。宿舎は呉の浜茶屋。横になって寝ることも出来ない

くらいの大人数。暑さしのぎに海で泳ぎ、砂浜で一夜を明かした。

その広島で原水爆禁止二〇一七年世界大会・広島「ヒロシマデー」が開催された。第九回世界大会以後の数々の困難を克服して、日本原水協と被爆者が連帯した世界への粘り強い働き掛けで、七月には「国連会議」での核兵器禁止条約の採択に上りつめ、二〇一七年世界大会は感動・感動の歴史的変化の中で幕を閉じた。

五四年ぶりに早朝の広島平和公園に立って「新しい段階」への思いを強くした。

この歴史的変化の中で安倍晋三氏（首相と書くことをためらいます）の「真に『核兵器のない世界』を実現するには、核兵器国と非核兵器国双方の参画が必要」発言は、被爆者・国民を愚弄するもので許せない。「核兵器のない世界を」と言いながら「アメリカの核の傘で日本の安全が守られている」と言い張る立場は、核兵器を認める立場。到底「条約参加への橋渡し」などできない。

急いで、条約に背を向ける安倍政権を倒し、条約にサインする日本政府実現が実感です。

## 詩人会議かなざわ「独標」より

### 昨今

高久晴美

言葉は生き物
世の中の流れに竿差す事など
無理と知りながら

昨今
世に蔓延る
「じいじ」と「ばあば」に嫌悪感
可愛いいとでも言うのか
若々しいとでも言うのか
どうあれ
「じいさん」「ばあさん」に変わりないのだ
「お」も「ちゃん」も「さん」も付けず
失礼極まりないではないか
どんなに一人で泡吹こうとも
国営枚送のドラマでも
市民権を得ているのだから腹が立つ

よおし！
世の中の最後の「ばあちゃん」になってやる

鼻息荒く孫に言う
「はい、はい…」
苦笑しつつ小学校三年の孫に言われる

ふうむ…

## 《編集室より》

◎北朝鮮は九月三日、六度目の核実験を強行した。爆発規模について防衛省は、TNT火薬に換算して広島原爆の一〇倍以上の約一六〇キロトンと分析した。さらに一五日には日本列島を飛び越える弾道ミサイルを再発射した。これで発射は今年だけでも一四回にもおよぶ。これらの暴挙は、世界の平和と安定にとって重大な脅威であり、国際社会が追求している「対話による解決」に逆行し、核兵器禁止条約の採択など「核なき世界」を求める世界の大勢に逆らうものである。

これに対して安保理は、制裁決議を短期間のうちに全会一致で採択し、米国防長官は「軍事的な選択肢」に言及した。安倍政権が制裁に固執するのは、偶発的な軍事衝突を引き起こしかねない。現状の危機の打開のためには、米朝の直接対話が緊急で切実な課題である。唯一の被爆国日本こそ先頭に立ってそれを促し、外交的な関与のあり方をめぐって関係各国と協議を深めていくべきである。

しかし、北朝鮮の核兵器開発が彼らにとって対米国上、最も重要な抑止力なのだろうか。また周辺国は対話なき制裁でよいのであろうか。

かつての真珠湾攻撃や同時多発テロを思い返すまでもなく、米国は自らの安全保障が脅かされれば「正義」の名のもとに報復に出る。北朝鮮がこのままミサイル・核開発を推進すれば、自らのリスクを引き上げることになる。また制裁一辺倒は問題の先送りであり、根本的な解決にはならない。北朝鮮に対し「あなたたちは核兵器とともに生き残ることは出来ないが、それを放棄すれば生き残ることが出来る」ことを示し、対話による外交的な枠組＝朝鮮半島の非核化に向けた世界的視野に立ったロードマップを示すことが不可欠であろう。

それにしても、私たちには朝鮮半島に関わる知識と理解が驚くほど不足していることに気づく。かの地には反戦思想や平和を希求する表現活動がどれ程あるのだろうか。文化の力によって無知や偏見から解き放たれ、憎悪の連鎖を克服し、「人の心に平和の砦を築く」（ユネスコ憲章）ことが根本になければなるまい。（中）

## シリーズ 石川の地域点描 ⑬

フォトグラファー　中西　優

色づきが早いことで知られる石川県樹木公園の並木道は早くも八月末から少し紅葉が始まっていました。秋を代表する秋桜も街のいたるところで目にするようになりましたが、奥卯辰山健民公園でも開花が始まったようです。

秋と言えば「〇〇の秋」と言われるほど魅力がたっぷりの季節ですが、みなさんはどのような秋を楽しまれるのでしょうか？

（写真説明）色づき始めた並木道＝白山市鶴来の石川県樹木公園

（写真説明）開花が始まった秋桜＝金沢市・奥卯辰山健民公園

## 絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班　広瀬勝子

### 《非核平和の掲示板》

| | 日 | 曜 | 時 | 内容 | 場所 |
|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 20日（水）～26日（火） | | | 核兵器禁止条約参加を求める世界統一「平和の波」連鎖行動週間 | |
| | 23 | 土 | 14:00 | 原発をなくす石川県連絡会 総会 | 金沢市北安江・金沢勤労者プラザ |
| | 23 | 土 | 17:30 | 国連 核兵器廃絶デー「ヒバクシャ国際署名」行動 | 金沢市青草町・近江町市場入り口バス停付近 |
| | 23 | 土 | 18:30 | 同上　映画「この空を見上げて＝いしかわ被曝者たちの証言」講演「核兵器禁止条約について」 ピースデポ 山口大輔さん | 金沢市青草町・近江町交流プラザ4階 |
| | 26 | 火 | 12:30 | 世界統一「平和の波」核兵器廃絶署名 | 金沢市青草町・近江町市場入り口バス停付近 |
| 10 | 6 | 金 | 12:30 | 核兵器廃絶署名6・9行動 | 金沢市武蔵町・Mza前 |
| | 7 | 土 | 13:30 | 九条の会・石川ネット「学習・活動交流会」(飯森和彦弁護士) | 金沢市香林坊・石川県教育会館2階会議室 |
| | 8 | 日 | 14:00 | ポスト「アベノミクス」の経済学ーこの経済政策が民主主義を救うー安倍政権に勝てる対策　松尾匡・立命館大学教授 | 金沢市青草町・近江町交流プラザ4階 |
| | 15 | 日 | 13:30 | 被爆三世・林田光弘講演会 | 金沢市高岡町・松ヶ枝福祉館4階 |
| | 19 | 木 | 16:00 | 戦争法廃止！ピーステント | 金沢市広坂・いしかわ四高記念公園中央口 |
| | 28 | 土 | 13:30 | 映画「日本と再生」上映と講演・鈴木悌介さん | 金沢市香林坊・石川県教育会館3階ホール |
| | 28日（土）～29日（日） | | | 2017年日本平和大会in岩国 | 山口県防府市・岩国市 |
| 11 | 3 | 金・休日 | 14:00 | 平和憲法公布71年記念石川県民集会／安倍9条改憲論・9条に「自衛隊」の意味するもの　大河内美紀さん | 金沢市香林坊・石川県教育会館3階ホール |
| | 9 | 木 | 12:30 | 核兵器廃絶署名6・9行動 | 金沢市武蔵町・Mza前 |
| | 11 | 土 | 13:30 | 劇映画「明日へ　戦争は罪悪である」上映会 | 津幡町文化会館シグナス 視聴覚ホール |
| | 19 | 日 | 10:00 | 第14回原発・いのち・みらいシリーズ講演 「3・11甲状腺がん子ども基金代表理事」 崎山比早子さん | 金沢市堀川町・ホテル金沢 |
| | 19 | 日 | 14:00 | 戦争法廃止！ピーステント | 金沢市広坂・いしかわ四高記念公園中央口 |
| | 24日（金）～26日（日） | | | 2017日本のうたごえ祭典inいしかわ・北陸 | 金沢市・小松市・津幡町の各ホール |
| | 26 | 日 | 13:30 | 劇映画「明日へ　戦争は罪悪である」上映会（2回上映） | 加賀市・真宗大谷派（東本願寺）大聖寺教務所 |
| | 30 | 木 | 10:00 | 劇映画「明日へ　戦争は罪悪である」上映会（3回上映） | 金沢市広坂・金沢21世紀美術館B1シアターホール |

＊ 祝日は休日とします　＊ 毎週金曜日18：30どいね原発アピール行動 金沢駅兼六園口　＊ 毎月15日石川県沖縄連帯デー